

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	一般財団法人長野市文化芸術振興財団	
施 設 名	長野市芸術館	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	4,001	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	4,001 (千円)

1. 事業概要

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	長野市芸術館シニア演劇アカデミー 第5期生公演	2024年1月28日	監修：西村まさ彦(俳優) 演出：関口静夫、山本陽将 演出助手：酒井八千代、宮崎玲子 スタッフ：忍足亜輝 脚本：中村美枝子、山本陽将 チーム構成：Aシニア(60歳以上)選抜10名 / B：シニア+18歳(高校生不可)~59歳20名 / 合唱隊5名(オーディション落選者から募集)	目標値	公演来場者：200*2公演=400人 アカデミー参加者：40人
		長野市芸術館アクトスペース		実績値	公演来場者：1回目198人 2回目194人 アカデミー参加者：30人
2	金曜よるのクラシック・リサイタルシリーズ vol.10~12	2023年11月24日、他	出演者： vol.10 金子三勇士 vol.11 三浦文彰、高木竜馬 vol.12 遠藤真理、三浦友理枝	目標値	246*3公演
		長野市芸術館リサイタルホール		実績値	① 269人 ② 268人 ③ 255人
3	加藤昌則のぶっとび!クラシック&自作自演リサイタル	2023年9月27日、他	出演者：加藤昌則 ぶっとび!クラシックでは講師兼演奏を務め、自作自演リサイタルでは、自身が作曲した楽曲を演奏する	目標値	198×5回+169=延べ1,159
		長野市芸術館リサイタルホール		実績値	延べ987人
4	凱旋コンサート・シリーズ Vol.8「小山弦太郎×山本貴志 The DUO」	2024年2月3日	出演者：小山弦太郎、山本貴志 長野で生まれ育った演奏家による凱旋コンサート	目標値	226人
		長野市芸術館リサイタルホール		実績値	238人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>◆「文化力あふれるまち 長野市」の拠点として</p> <p>当館は「文化力あふれるまち 長野市」の拠点としての使命を担い、それを支えるキーコンセプト「育む」「楽しむ」「創る」「つなぐ」の4つの柱を以って対象となる令和5年度の普及啓発事業を<u>当初の予定通り完遂することができた。</u></p> <p>当館は市民のニーズを捉えた事業を展開し、地域の文化芸術の裾野を広げる取り組みに尽力している。今回、本普及啓発の対象となる4つの事業は、本館で数年にわたり継続的に実施している人気シリーズである。回を重ねるごとに「楽しむ」はもとより、「育む」「創る」「つなぐ」を求め、人が集う場所として市民に認知されているという実感を、来場者と直接交わす言葉から、またアンケートからも得られるようになってきた。</p> <p>これらの体感は、一朝一夕に実現することのできない文化芸術の花開く街を実現するため、普及啓発事業の重要性を再確認し、それは市民と協働して築くことなしに実現し得ないものと繰り返し認識をすることとなった。</p> <p>◆長野市芸術館第2ステージ「文化芸術を通じた活動の進化と深化」の集大成</p> <p>向学心の強い地域の特性を軸にし、シニア演劇をチャレンジングな内容にアップグレードする、人気のレクチャー型公演内では本番中にラジオの公開録音を行うなど、人気公演の所以たる、会場に行けばいつも「何か新しく、何か面白い」がある舞台を作ってきた。特に主催公演では毎回来場者の半数近くのアンケートが回収され、集計結果を総合してみても満足度の高さは相当なものであることが判断できる。</p> <p>令和5年度は長野市芸術館の中長期計画の中でも第2ステージとしての5年間の5年目にあたり、テーマとする「文化芸術を通じた活動の進化と深化」を締め括るに相応しい成果を得られたものと判断するに至った。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p>◆文化的意義</p> <p>金曜よるのクラシック・リサイタルシリーズは、チケットの入手困難な人気アーティストの公演を間近で聴ける機会とあり、回を重ねる毎に集客も増えてきていることからシリーズが市民に認知されてきていることが伺える。また、平日の昼間に来場の難しいサラリーマンや学生の来場者も増え、長野市芸術館の客層の拡大につながっている。凱旋コンサート・シリーズは地元出身のアーティストの活動の支援だけでなく、子供たちが彼らを身近に感じることで将来の目標となりうる文化的環境作りの一端を担っている。</p> <p>◆社会的意義</p> <p>長野市は県内で最も人口を有する中核市である。しかしながら、地方都市の抱える人口割合の高齢化という課題とも直面している。地域の発展に貢献してきた高齢者たちがまだまだ元気でリタイア後の人生を楽しむ環境を提供することは文化の発展と決して無関係ではない。シニア演劇アカデミーの企画などはまさにそういったシニアの新たな挑戦の場として人が集まってくる。それは、リタイアを控えた中高年にも今後の目標となり、これから生きる若者たちへのメッセージとなる。</p> <p>◆経済的意義</p> <p>特色のある公演の企画は市内外、県内外からの集客につながった。金曜よるのクラシック・リサイタルシリーズでは、ウェルカムドリンクの提供を開始し、地元の果物を使ったジュースやアルコールなどの紹介の場としても一役買い、好評を得ている。公演後には近隣の飲食店へと足を運んでから帰宅する経済効果の一助となっている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

目標①：様々な年齢層の市民がステージに立つ機会を提供する市民参加型事業の実施を通して、参加した市民の豊かな感性を育み、新たな夢や生きがいを創生し、文化芸術に携わる人口の増に寄与する…事業番号 1

[指標]：市民参加型事業の市民参加人数及び満足度 [目標：40人/90% ⇒ 実績：30人/88%]

「長野市芸術館シニア演劇アカデミー 第5期生公演」では、市民参加人数40人を目標にしており、応募者は予定を上回る67人の応募があった。しかしながら、出演者の数については、調整を行ったところ、公演脚本の都合上30人がオーディションを通過し出演することとなった。目標値には届かなかったものの、出演できなかった方の中には、スタッフとして参加する方もおり、多くの方が文化芸術に携わる機会を作ることができた。また、参加者の満足度も概ね目標値に達し、新たな夢や生きがいの創出に寄与できたといえる。

目標②：高齢者や主婦、仕事帰りのサラリーマンなどそれぞれのライフスタイルにあった音楽を楽しむ時間を提案し、趣味や生きがいがづくり、仲間づくりの契機につなげる…事業番号 2

[指標]：鑑賞型普及事業における来場者数 [目標：610人 ⇒ 実績：792人]

「金曜よるのクラシック・リサイタルシリーズ」では、来場者を目標値より大きく上回ることができ、より多くの市民に音楽に触れる機会を提供することができた。また、アンケート(370名)の集計結果の内訳をみると、60代未満の現役世代の割合が50.4%と割合が高く、ターゲットとしている仕事帰りの現役世代を集客することができており、より多くの市民の趣味や生きがいがづくりとなる公演にすることができたといえる。

目標③：講座型事業を通して、知識欲が強い長野市民のニーズを満たし、文化芸術の知識をより深めることで、将来の長野市における文化芸術の振興の基盤を固める…事業番号 3

[指標]：講座型事業における来場者 [目標：1,010人 ⇒ 実績：987人]

「加藤昌則のぶっとび!クラシック&自作自演リサイタル」では、実績が目標値に届かなかったものの、昨年度の実績に比べると来場者数が増加しており、概ね事業の目標は達成できたものといえる。また、アンケートの意見からも「以前は読むのが辛かった楽譜に、興味を持って読めるようになった(1時間目)」「荘厳な音楽と専門的な講義で、バッハの曲に対する理解が一層深まった(3時間目)」「バッハは音楽の父くらいの認識だったが、深堀することでバッハ作曲技法の偉大さに感銘を受けた(5時間目)」といった意見があり、長野市民の知識欲を満たす公演内容となった。

目標④：「おらが町」から世界に羽ばたいた演奏家と地域住民との新しい関係を創り出し、地元ファンを増やすことで、市出身アーティストの更なる飛躍と応援体制の確立を目指す…事業番号 4

[指標]：市出身アーティストの公演に対する再来場意向割合 [目標：70% ⇒ 実績：76.1%]

「凱旋コンサート・シリーズ Vol.8「小山弦太郎×山本貴志 The DUO」」では、アンケート(106名)結果から、回答いただいた全員から出演者について良かったと回答があった。芸術館をホームとして地元出身のアーティストの存在を広く知ってもらい、支援することでアーティストが地元へ恩返しするといったアーティストと市民との一連の関係性の構築に繋がったと推測できる。また、目標値にあった市出身アーティストの再来場意向割合では、市出身アーティストの再来場を期待する声が多く、市出身アーティストを応援する市民意識が醸成されてきたといえる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【長野市芸術館シニア演劇アカデミー 第5期生公演】

当初の計画どおり9月18日の結団式から計22回の練習を行い、本番を迎えることができた。参加者アンケートでは85%が稽古の回数が適当だったと回答し、練習回数や実施期間についても適正だったといえる。

【金曜よるのクラシック・リサイタルシリーズ vol.10~12】

本事業は平日の夜の仕事終わりに音楽を楽しむことをコンセプトに実施しており、当初の予定どおり全て平日金曜日の19時から実施することができた。入場率（発券/有効席数）は全て100%を超えており、事業実施期間も適正だったといえる。

【加藤昌則のぶっとび！クラシック&自作自演リサイタル】

本事業は、9月から半年間かけて5回の講義と1回のリサイタルと行うものであるが、全ての公演について当初の計画通り実施することができた。

【凱旋コンサート・シリーズ Vol.8「小山弦太郎×山本貴志 The DUO」】

当初の計画どおり事業を実施することができ、（発券/有効席数）入場率も90%を超えており、事業実施時期も適正であったといえる。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

各事業において概ね計画通りに実行し、ほぼ計画どおりの決算となっており、正しい積算及び事業執行を達成できている。

	収入（千円）			支出（千円）		
	当初予定額	決算額	増減率	当初予定額	決算額	増減率
普及啓発事業（4事業）	5,569	6,187	111.1%	13,887	12,665	91.2%

【収入面】

新型コロナウイルス感染症の影響が減り、安定的にチケット収入を得ることができた点や事業協賛による協賛金収入があったことから収入については目標値より増加した。

【支出面】

支出面については、広告宣伝費に関し、事業ごと適当な広報手段を検討することで、大きく削減することができた。特に、【加藤昌則のぶっとび！クラシック&自作自演リサイタル】では、本事業が番組タイトルにもなった「加藤昌則のぶっとび！クラシックでR（あ〜る）」という地方ラジオ番組（長野市芸術館協賛番組）に加藤昌則氏がレギュラー出演しており、番組内でも広報活動を行ったり、そのかわりに公演内でラジオ番組のテーマ曲を公開収録したりすることで相乗的に話題性が生まれ周知に繋がった。このように、広告の方法を工夫したことで支出も抑えることができた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

事業番号1：長野市芸術館シニア演劇アカデミー 第5期生公演

長野市芸術館シニア演劇アカデミーは今回で第5回を数え、監修の西村まさ彦氏によるこれまでの経験値から、長野市芸術館の強みを活かした次なるステップ（進化）というチャレンジングな演劇に取り組んだ年となった。完全書き下ろしオリジナル脚本による作品2本が制作されることとなるが、中でも生演奏を取り入れた物語は長野市芸術館シニア演劇アカデミーならではの取り組みとして毎回注目されている。二つの作品共に参加者の個性を活かした脚本に仕上げるため、この時このメンバーでしか生まれることのない物語ができあがった。「信じられないくらい、どんどん参加者の皆さんの活力が満ちてきて、元気になっていく」と回を重ねる毎に変化する参加者の姿を目の当たりにしてきたボランティアスタッフの感想は実に印象的なものだった。



参加者の中には、日常生活では杖で過ごしている方が参加を希望したり、シニア演劇ではあるものの、今回若い人の参加も受け入れたり、積極的に参加者の幅を広げた。まさに、目指すところのひとつである多様性の受容である。これにより作品はより深みのある、深化したものへ昇華した。

事業番号2：金曜よるのクラシック・リサイタルシリーズ vol. 10～12

数々のアーティストからも音の響きに定評のあるリサイタルホールでは、チケットが入手困難な一流のアーティスト招いて平日金曜の夜のリサイタル・シリーズを企画している。東京を中心とする大都市に偏りがちな質の高い実演芸術を気軽に、そして手に取りやすいチケットの値段で開催することは必ずや地域の文化力の底上げにつながり新たな顧客層の獲得に貢献するものと考究を重ねてきた。今シーズンは、ピアノ・金子三勇士氏、ヴァイオリン・三浦文彰氏、チェロ・遠藤真理氏といういずれもビッグネームの出演が叶い、チケットも全公演早々にソールドアウトする結果となった。収容人数が283人という決して大きくはないホールではあるが、だからこそ体感できる実演芸術ならではの魅力を来場者に伝えることこそ、本普及啓発事業の大きな狙いである。内容もアーティストによる長野への思いを選曲に活かし、長野市芸術館バージョンの編曲や、長野を舞台とした大河ドラマのテーマ曲なども披露いただき、市民の心をしっかりと掴み、アーティストのみならず芸術館のファンを増やす結果となった。



事業番号3：加藤昌則のぶっとび！クラシック&自作自演リサイタル

長野市民にとって最も身近な音楽の講師といっても過言ではない加藤昌則氏による人気シリーズである。毎回様々な工夫をこらし、制作スタッフ総出で作り上げる公演は子供から大人まで満遍なく楽しめることができ、市民と芸術、市民とアーティスト、市民と芸術館をつなぐ拠点として機能している。令和5年度のテーマは作曲家バッハ。これまで幾度となく取り上げてきたが、公演アンケートなどからも根強い要望を受け、1シーズン通してバッハに焦点を当て深掘りする内容は加藤氏自身にとっても初の試みとなった。

わかりやすい語りと、実演を交えた飽きさせない構成は観客を惹きつけ、講座のみならず、取り上げられた題材を鑑賞へ向かわせるルートを創出している。5回の講座の後は加藤昌則氏の25年ぶりとなる自作自演リサイタルを開催。彼のフランクな人柄と講座によって敷居の高いイメージを変え、気軽にクラシックを聴きに来る市民が増えた功績は大きい。また文化芸術の拠点として、加藤昌則氏の知名度をより高めたいという意図もあった。集客としてはまだまだ伸び代があるものの、市民のクラシックの導入として、普及啓発事業という観点においてはこの先長野市の文化芸術が広く地域に根付くための礎となる公演であると確信するものである。

事業番号4：凱旋コンサート・シリーズ Vol.8「小山弦太郎×山本貴志 The DUO」

小山弦太郎氏、山本貴志氏両名共に当館にかかわりの深いアーティストである。市民の認知度も高くファンも多い。コンサートの要望の多い彼らの異色のコラボレーションは新たなファンの獲得だけでなく、これまで互いに接点がなかったという2人のアーティストにとっても新たな出会いの場を作る役割を果たすことができた。芸術館をホームとして地元出身のアーティストの存在を広く知ってもらい、支援することでアーティストが地元へ恩返しする関係性を目指している。また、若い世代や子供たちに、地元から世界へ羽ばたくアーティストの姿を身近に感じてもらう目標となるヴィジョンを示すことは長野の文化芸術の普及啓発に大きく寄与するものである。



事業番号3
手作りのキットでレクチャー



事業番号4
演奏終了後熱い握手を交わす二人

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

中長期構想「ながの文化ビッグバンプロジェクト」による号令の元、第2ステージ“文化芸術を通じた活動の進化と深化”ファイナルイヤーとなった令和5年度は、ひとつの集大成として一定の成果を得られた年となった。普及啓発事業対象の公演は、当館が地域の実演芸術の拠点として市民に認識されるシリーズへと着実に成長している。いくつかのSNSを利用し情報の発信を行なっている中でも公演後のレポートはファンが多く、Facebookのリーチ数は毎回平均1000（最高リーチ数は3000）を超えるものとなり、市民の関心事であることが窺える。市民参加企画を充実させること、市民の需要にマッチした公演を企画・制作すること、各種アウトリーチ・インリーチなど特色ある企画で情報の届きにくい層へ実演芸術を届けること。普及啓発とはすぐに結果の出ることのない、弛みない努力と積み重ねを要する地道な活動でありながら、「文化力あふれる長野市」を目指すための最も肝心且つ核となる事業である。「育む」作業は決して数値では計ることはできないが、ウィークポイントとして指摘されていた平日夜の集客については、ソールドアウトした金曜夜のクラシック・リサイタルシリーズでひとつの結果を残せたと評価できる。開館以来、人々が集い、出会い、心通わせる多様な交流機会が生まれる場所として進化の歩みを止めることなく市民と共に深化してきたことは令和6年度からの第3ステージに移行するに相応しい成果である。

市民参加企画をきっかけとして主催公演に熱心に観客として来場するようになった市民、その逆で公演のファンから一念発起し自らも舞台に立とうと市民参加企画へ参加する市民がいる。そういった方々が一人また一人と増える毎に、地域の文化芸術の小さな実りを感じ、当館の果たすべき地域への役割を再認識することができた。

人々の生きがいのある豊かな人生に文化芸術はなくてはならないエレメントとして実演芸術の持つ力を信じ、人々の創造性と想像力を刺激する質の高い企画で長野市芸術館令和6年度からの第3ステージ「文化芸術で更に心豊かで幸せなまちに」というテーマに臨みたい。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【事業運営】

長野市の文化芸術活動を振興し、「文化力あふれるまち長野市」の実現に寄与するため、長野市芸術館を拠点として、向学心の強い県民性から興味関心が高い、レクチャー企画を始めとして、市民が文化芸術に触れる機会と場を提供するとともに、吹奏や合唱、演劇などの様々な分野の市民参加型の企画を実施し、市民の自主的・創造的な文化芸術活動の支援及び育成に取り組んだ。

いずれの事業も長野市民からの満足度は高いが、次年度の事業企画の際には、来場者・市民参加者からアンケートを実施し、より市民の興味関心や満足度を高められるよう事業を制作している。

【経営戦略】

本財団は、長野市と第二期目となる指定管理契約（平成31年度～令和5年度）を結んでおり、令和5年度は第二期指定管理契約の最終年度となっていたが、これまでの実績及び本財団としての第三期指定管理事業方針が評価され、令和6年度においても引続き指定管理契約（令和6年度～11年度）を締結することができた。

また財政面では、より質の高い事業の実施に向け、自主財源の確保として、年間協賛パートナーの募集を開館依頼継続して実施しており、地元企業から文化芸術振興への理解をいただき、協賛社数は令和4年度から16社増加の105社となり、令和5年度は過去最高の協賛社数となった。

協賛金に加えて、補助金を安定的に獲得することで借入金もなく流動比率も良好な状態である。

【人事戦略】

開館当初は即戦力となる中途採用の雇用に重点を置いていたが、当館から文化芸術に携わる人材を育てるため、新卒者を含む若手職員の雇用に優先的に実施している。採用した職員については、配属部署においてOJTを行い、人材育成に努めている。

加えて、インターシップ（大学生）や職場体験学習（中学生）を積極的に受け入れ、文化芸術の仕事に興味関心を持ってもらい、将来携わりたいと思えるような人材創出のきっかけづくりを行っている。

また、助成対象事業の「長野市芸術館シニア演劇アカデミー」においては、過去に市民参加型の企画として参加いただいた方を中心に、ボランティアでスタッフとして引き続き活動を頂くなど、市民の中からも文化芸術に継続的に携わっていただけるような風土作りも実践している。

【ネットワークの構築】

長野県公立文化施設協議会への参加など、県内県外含む同様の音楽堂等との関係性を大事にしながら、相互に公演活動の運営や広報に協力関係を築いている。また、文化芸術の次代の担い手である若年層とネットワークを構築するため、県内の高校・短大・大学生を巻き込んだ市民企画などができないか調査・研究を行っている。